

二〇二〇年度 入学試験問題

国語

第一回

【注意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから七ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

95

90

85

80

75

70

65

問一

——(1)『個人の生活』と『社会』の関係が、『労働』というものを通じてしっかり結びついていました。」とありますが、これはどういうことですか。四十五字以内で答えなさい。(句読点を含みます。)

120

115

110

105

100

問二

——(2)「ファーストフードで接客のアルバイトをしている生徒」の労働に対する気持ちの説明としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒は、アルバイトで接客の楽しさを感じるようになっており、単なる収入のための労働ではないと感じている。

イ 生徒は、社会を意識してアルバイトをしているわけではないが、自分の収入が社会貢献につながると感じている。

ウ 生徒は、社会のためになるように客へサービスすることを心掛けており、自分でもそれは成功していると感じている。

エ 生徒は、自分のおこづかいのためにアルバイトをしているが、客への配慮を通じて収入以外の意義も気づき始めている。

問三

——(3)「社会のためって感じじゃない」とありますが、現在、人々がこのように感じるのはなぜですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問四

——(4)「ちょっと話が大きくなりすぎました。」とありますが、これはどのような点をさしていますか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問五

——(5)「自立」もまた社会参加という文脈の中でとらえる必要がある」とありますが、この「自立」とはどのようなことを説明した箇所を五十文字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書きなさい。(読点やカッコなどがあれば字数に入ります。)

問六

【A】 【D】 に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア また イ ところが ウ たとえば エ つまり

問七

——(ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア かつては、ごはんを食べるときにお百姓さんに感謝するように、あらゆる労働に対して感謝の気持ちを持つのが当然だったが、現在は、労働は個人的な行為であり義務であるとされているので感謝は不要だと言われている。

イ いままでは、労働は収入を得るためだけの個人的な行為だと思われてきたが、最近は若い人たちが、労働による収入や社会的な地位にはこだわらず、人間関係の充実や環境の改善を重視するようになってきている。

ウ 現在は、家庭が経済的に恵まれていなかったり就職がうまくいかなかったりすると、すべて自分や家庭の責任だと思ふ生徒が多くなっているが、当事者だけが悪いわけではなく、社会の側にも個人に労働を用意する責任がある。

エ 労働には、有償の職業労働、無償の家事労働、そしてボランティア労働の三つがあるが、労働と個人、社会との関係でいえば、「お互いさま」という姿勢による社会参加という点で、ボランティア労働がもっとさかんになるべきだ。

2 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

30

25

20

15

10

5

60

55

50

45

40

35

95

90

85

80

75

70

65

120

115

110

105

100

問一

——(1)「見て」とありますが、「見る」を使った次の一～五の慣用句の意味を、後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 白い目で見る

二 長い目で見る

三 ばかりを見る

四 目の目を見る

五 見る影もない

「意味」

ア 冷たい目つきで人を見る。

イ 将来のことまでを考えに入れる。

ウ 昔のりっぱな様子がどこにもない。

エ 損をする。

オ 今まで知られていなかったものが、世の中に認められるようになる。

問二

——(2)「頭がクラッとなるほど驚いた。」とありますが、なぜですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問三

——(3)に入れるのにふさわしい言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 最悪 イ 理想 ウ 現状 エ 確実

問四

——(4)「あかりから目をそらして気まずそうな顔をしているばかりだ。」「はじめてあかりの顔を見てつづけた。」とありますが、それまであかりから目をそらしていた桃子があかりの顔を見ることになったのはなぜですか。解答らんに二行以内で答えなさい。

問五

——(5)「桃子の言葉は、まるで国語の時間に文章を読まされているみたいなのに、なんの気持ちもこもっていなかった。」とありますが、なぜですか。その理由としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 桃子は、先生の頼みを聞かなければならなかったことを不本意に感じているが、その感情を先生の前では隠しておかないといけなから。

イ 桃子は、先生に頼まれてチャダンスを引き受けたという芝居を打つことで、あかりの同情を得ようとしているから。

ウ 桃子は、先生に無理やり事情を説明するように頼まれていて、せっかく口裏を合わせたことをあかりに聞かせることが不本意だから。

エ 桃子は、先生とのやり取りがあつたことをあかりに伝えようと事前にはりふを用意しており、そのせりふを読み上げながら話していたから。

問六

——(6)「そのあやしい空をぼんやりと見つめつづけた。」とありますが、この描写が示しているのは、あかりのどのような気持ちですか。二十字以内で答えなさい。(句読点を含みます。)

問七

——A D に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

ア どしどし イ もちろん ウ まます エ ようやく

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 黒沢先生は、病院に見舞^{みま}いに来た由香と桃子に対して、あかりが自分から話しかけようとしなかったのを見かねて、あかりに、父親のために由香と桃子といっしょにチアダンスをしようと提案した。

イ 黒沢先生は、あかりと桃子、由香の三人でチアダンスができるようになったと言ったが、本当は、黒沢先生が、あかりの父親を元気づけようと、三人が仲がよいことを見せるように桃子や由香に頼んだ。

ウ 黒沢先生は、あかりの病気の父親がチアダンスを楽しみにしていると思つて、チアダンスを実現させようとしているが、あかりは、そのような理由でチアダンスをしても、父親は少しもうれしく感じないだろうと思つていた。

エ 黒沢先生は、あかりに対して、桃子がチアダンスをやる気になったと告げたが、実際は、あかりの病気の父親がチアダンスを楽しみしていることから、黒沢先生が気づかって、桃子や由香にチアダンスをするように頼んだ。

